

第2章 人が行き交いふれあうまち

第1節 道づくりと交通政策



第2章 人が行き交いふれあうまち

第1節 道づくりと交通政策

1 那須の道づくり

《目指すべき方向》

＝計画目標＝

- 町内を有機的に結ぶ新たな道路ネットワーク構想を策定し、計画的な道路整備を行います。
- 町道整備については、地域の振興・開発・住民の生活道路としての必要性の見地から格付けを行い、重要度の高い路線から計画的な整備を推進します。
- 広域幹線道路である東北自動車道・国道・県道については、渋滞を解消し、安全で快適な道路環境を創出するため、道路の拡幅、歩道の整備等を各関係機関に要望していきます。
- 道路景観の保全や、観光交流拠点での道路情報の提供など、快適な那須の道づくりを推進します。
- 未登記町道の登記促進により、適切な道路管理を行います。

＝施策の内容＝

那須の道づくり

(1) 新・道路ネットワーク構想の策定

(2) 町道の整備

(3) 広域幹線道路の整備

(4) 道路景観の保全

(5) 道路情報の提供

《計画の背景》

- 本町の道路交通網は、町の中央部を縦貫する東北自動車道及び国道4号、東南部における国道294号を機軸とし、国道を縦横に結ぶ県道と、それらを補完する町道により道路ネットワークを形成しています。
- 東北自動車道や国道は、流通、観光等の動脈として利用され、年々交通量が増加しており、観光シーズンの交通渋滞や利用者の安全確保の見地から、東北自動車道の6車線化や国道の整備改善を引き続き促進していく必要があります。
- 県道については、那須甲子有料道路及び那須高原有料道路の無料化や、道路改良工事の実施による交通状況の改善により、町外からの観光客の利用が増加傾向にあり、観光シーズン

には交通渋滞が発生している状況にあります。また、交通量の増加への対応と利便性確保を図るため、既存路線の整備改善や、バイパスの検討など総合的な対策が求められています。

○町道は地域住民の生活道路として利用されており、647路線、延長600kmが縦横に網羅されていますが、大部分が1車線の道路であることから、現在の車社会に対応した2車線への道路改良や、地域性を考慮した局部改良が必要となっています。

○高齢化の進展に伴い、高齢者が外出しやすい安全な道路環境の創出や個性的なまちづくりを推進する見地からは、魅力ある道路整備が求められています。

《目標実現に向けて》

(1) 新・道路ネットワーク構想の策定

○那須甲子有料道路や那須高原有料道路の無料化をはじめ、東北自動車道那須高原スマートインターチェンジの供用開始に伴い、観光客の周遊性の向上や、産業振興、町内拠点への利便性を視点とした新たな道路ネットワーク構想を策定し、道路整備の指針とします。

(2) 町道の整備

○町道は、最も身近な地域住民の生活道路であることから、重要度の高い路線から計画的に整備推進を図るとともに、未登記路線の解消に努め、適切な道路管理を推進します。

○橋梁の延命を図るため、「那須町橋梁長寿命化修繕計画」を策定し、計画的な保守管理に努めます。

(3) 広域幹線道路の整備

ア 東北自動車道の整備

○本町内の東北自動車道は観光シーズンに渋滞し、高速道路として機能が果たせない状況になっているため、県及び関係市町と連携し、宇都宮IC以北の6車線化の早期実現を要望するとともに、那須高原スマートインターチェンジの利用促進を図ります。

イ 国道の整備

○流通社会の発達により、本町内の国道は年々交通量が増加していますが、道路事情が悪く、交通事故の多発地帯となっているため、安全な道路状況の確保を目指し、次の事項を国に要望していきます。

※国道4号黒磯バイパス以北から福島県境間の一部区間の4車線化と道路線形の改良や、歩道未整備区間の整備促進

※国道294号寄居（明神）から福島県境間の改良工事の促進

ウ 県道の整備

○県道は、周辺市町を結ぶアクセス道路として重要な役割を果たしていることから、町内の未改良路線について早期整備が実現できるよう、関係機関と連携を図りながら県に要望してい

きます。

※県道改良早期実現区間

〈路線名〉	〈要望事項〉
黒磯・那須北線 (都市計画道路3・4・3)	筒地地内の早期事業化
豊原・高久線	黒田原地内及び高久駅周辺の改良整備
大子・那須線	黒田原地内の変形踏切の解消・大和須棚橋地内の通行不能区間の解消
那須・西郷線	小深堀地区から大沢地区間及び大谷地区から綱子地区間の改良整備
大田原・芦野線	芦野地内黒川から西坂間の改良整備
那須高原線	田代地区から高原地区間の歩道設置及び県営駐車場から奥那須地区間の改良整備
黒磯・棚倉線	稲沢地内町田から沓掛間及び上郷地内から福島県境間の改良整備
稲沢・高久線	芦の又地内及び沼野井地内の改良整備
伊王野・白河線	梓地内から福島県境間の改良整備

(4) 道路景観の保全

- 観光客等にもわかりやすい道路表示とするため、国・県及び町道の道路愛称の活用を進めるとともに、道路に対する親しみを高めるため標識や案内板等のデザインを統一することにより、良好な道路景観の形成を図ります。
- 町内自治会で組織する道路河川愛護会等の活動を支援し、地域の社会における美しい道づくりを推進します。

(5) 道路情報の提供

- 道の駅「那須高原友愛の森」、国道294号沿線の「東山道伊王野」、「遊行庵」において、観光客等に道路情報を提供します。
- 主要道路における安全な交通を確保するため、気象条件による道路状況（積雪・凍結・冠

水等)について国・県と連携し、的確な情報を提供します。

《数値目標》

〈指標名:町道整備指標〉

区 分	路線数 (本)	延 長 (km)	基準年次(平成21年)				目標年次(平成27年)			
			改良済 延長 (km)	改良率 (%)	舗装済 延長 (km)	舗装率 (%)	改良済 延長 (km)	改良率 (%)	舗装済 延長 (km)	舗装率 (%)
幹線1級	20	69	43	63	62	90	44	64	64	93
幹線2級	59	131	79	60	106	80	81	62	110	84
そ の 他	568	400	216	54	254	64	218	55	260	65
町道計	647	600	338	56	422	70	343	57	434	72

〈指標名:橋梁整備指標〉

区 分	基準年次(平成21年)		目標年次(平成27年)	
	箇所数(所)	延長(m)	箇所数(所)	延長(m)
永 久 橋	252	3,053	255	3,119
混 合 橋	11	97	10	42
木 橋	5	28	3	17
計	268	3,178	268	3,178



開通した山梨子・茗ヶ沢線 (県道那須高原線交差点)

2 交通手段の整備

《目指すべき方向》

＝計画目標＝

- 町民バスをはじめとする交通手段の充実に努めます。
- 町民や観光客の利便性向上のため、総合的な交通体系の整備を図ります。

＝施策の内容＝

交通手段の整備

(1) 路線バス運行支援と町民バスの運行

(2) 新たな公共交通の構築

(3) JR宇都宮線の利便性向上への取り組み

《計画の背景》

- 本町の公共交通網は、町民が広範囲に居住していることから、公共交通機関であるJRや民間バス路線の密度が極めて薄い状況にあります。町内に関係する路線バスについては、JR黒磯駅発の那須湯本路線を除いては運行便数が少なく、利便性の向上に至っていませんが、沿線の高齢者などの生活の足として欠かせないものとなっています。
- 町民の利便性向上を目的として、民間バス路線がない地域について町民バスの運行を行ってきたところですが、特定地域の路線運行であることから、運行ルートや乗車時間の工夫を行っています。また、新規路線の運行や、高齢者などへのさらにきめ細やかな対応も研究していく必要があります。
- 町民が広範囲に居住していることが、本町の大きな特色であることから、生活の利便性向上のため、新たな公共交通の構築が求められています。
- 観光シーズンにおける那須高原の渋滞解消を図り、観光客の周遊性の向上を推進する必要があります。
- JR東北本線は、通勤・通学や日常生活に不可欠な交通手段となっていますが、黒磯駅から以北での接続が少なく、乗り継ぎに不便をきたしていることから、宇都宮線の延伸等運行ダイヤの見直しを要望しています。

《目標実現に向けて》

(1) 路線バス運行支援と町民バスの運行

- 地域の生活の足である民間バス路線について、事業者と連携し、路線維持に努めます。
- 町民バスの運行については、既存公共交通機関とのアクセスや、通勤通学等の住民ニーズを的確に捉え、新規路線の開拓や運行ダイヤの工夫に努めます。

(2) 新たな公共交通の構築

○高齢者などの交通手段の確保を図るため、町内を広範囲にカバーする新たな公共交通のあり方について研究し、運行体制の構築とモデル事業を実施するとともに、具体化を推進します。

○那須高原の渋滞解消と、観光客の周遊性向上、環境負荷の軽減を図る那須高原パークアンドバスライド社会実験の結果を踏まえ、さまざまな課題の抽出と、地域連携による渋滞対策を推進します。

(3) JR宇都宮線の利便性向上への取り組み

○JR宇都宮線の白河駅までの延伸要望活動を行い、運行本数の増加による利便性の向上を目指します。



那須高原渋滞対策の一例（パーク&バスライド社会実験）